向上無限

校訓　生徒一人ひとりの可能性は無限大！

学校便り
校長　仲盛康治
『心一つに』
『誰かの笑顔のために』
『明日が待ち遠しい学舎』

第40回那覇市少年の主張エントリー

自分の意見をしっかりと書き、人前で発表することはすごく大切で必ず自分のためになります。今回本校からエントリーした3年の白保さんの素晴らしい意見文を皆さんに紹介します。

現在の『平和』を疑って観る

白保沙也加

「今の状況って戦時中の状況と少し似てるらしいんだよね。」

その一言に疑問を持った自分がいた。あるYou Tuberがさらっと言った一言である。私は日頃から、社会の情報を分かりやすく知るために、テレビで見たニュースと関連のある動画をYouTubeで見ることを心がけている。その中で出会った彼の言葉が、どうしてこんなにも疑問に感じるのだろうかと、一人でもがいていた。

現在、世界は新種のウイルスであるCOVID-19の脅威にさらされている。日本では、世界的な行事であるオリンピックが延期されたり、緊急事態宣言を発令して飲食店に営業時間の短縮要請、酒類の提供停止を求めたりしている。政府はウイルスの感染状況を見ながら、感染拡大防止策を練っているのだろうが、いつも通りの生活が困難になってきた人々は、ストレスを募らせるばかりだ。そのような、決して平穏とは言えない状況ではあるが、日本で戦争が起きているわけでも、日本が戦争に参加しているわけでもない。それなのになぜあのような発言が出てきたのだろうか。さらに疑問に思った私は、戦時中の日本のことを詳しく調べ、現在と比較することにした。

すると、戦時中の日本では、現在も行われている飲食店の時短営業を行っていたり、一九四〇年に開催予定だった東京オリンピックが中止になったりしていたことがわかった。また、戦争体験者にインタビューをした内容がまとめられたネットの記事には、戦時中の「隣組」という制度が、現在の緊急事態宣言下の日本の社会と似ている、と書いてあるのだ。現在の緊急事態宣言下の日本では、感染症予防に敏感になった人々が、街中に冷たい視線を送っている。そんな様子と、かつての「隣組」制度で、隣人同士が監視し合っていた様子が似ているのだという。今日のコロナ渦の世間は、いわば戦時下にあるのかもしれないと考えると、ぞっとした。後日、何気なくニュースを見ていると、沖縄県の基地問題や、オスプレイなどによる騒音問題、上空からの落下物に対する人々の恐怖と怒りを取り上げた番組が放送されていた。インタビューの場面で、「未だに基地問題は解決していないし、上空を飛行する機体を見つけたらすぐに防空壕のようなところへ避難する学校もある。戦争でもないのに、防空壕に避難しないといけない状況って、どうなっているんでしょうね」とインタビューに答える人々もいた。

沖縄県では、第二次世界大戦で大勢の死者を出すなど大きな被害を受けた。奇跡的に生き残った人々も心に深い傷を負った。誰もが望んで戦争に進んだわけでもないのに。戦争体験者は皆、口をそろえて「戦争は二度と起きてはならない」と唱える。そして、戦争を体験していない人々は、「戦争」の悲惨さを学び、「平和」について考えていかないといけないのだが、そうした先人達の想いを受け継ごうとする意識が、近頃薄れてきているような気がする。

今回私が伝えたいことは、戦争を体験していない自分たちの周りで起きていることを「あたりまえ」だから、と流してしまうのではなく、「あたりまえ」だからこそ、その背景に隠れている事実を知ろうとする力を身につける力が大切である、ということだ。現在、戦時下と同じような不穏な空気が流れる世の中だが、歴史を繰り返さないためにも、再び平和・安全を取り戻すためにも、「あたりまえ」に隠された事実に目を向ける必要がある。戦争体験者の「あたりまえ」だったことはもう「あたりまえ」ではないし、裏を返せば、私たちの「あたりまえ」もいつかはひっくり返る。私たちなりの考えで、平和と向き合っていきたい。